

プログラム名	
いのちのつながりと暮らしのヒント	
プログラムの概要・ねらい	
「循環型の暮らしがつくる日本の自然」「地球温暖化と生活防災」「持続可能な社会づくりとは？」の３部作。日本の自然観がわかる。地球温暖化の仕組みや現状を知り、ライフスタイルの変革につながる。世界の現状や問題などをグローバルに学ぶことができる。自ら考えて行動できる人を育てるきっかけづくりに最適。実績多数。まさしく SDGs。	
プログラムの分野	
■地球温暖化防止・エネルギー（自然）	
プログラムの対象者	
■小学校 5,6 年 ■中学校 ■特別支援学校（■聴覚障害）	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
30 人まで。	
実施場所	所要時間
教室、視聴覚室、多目的室、体育館	1 アクティビティ 45 分@3 本＝135 分
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	ホワイトボードまたは黒板（磁石）、プロジェクター、資料のコピー、
団場で準備するもの	PC、写真やイラストなど解説資料、磁石 ※教材を破損された場合は、補修費をいただきます。
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
②は、パワーポイントでお話ししますので、プロジェクターもしくは、モニターが必要になります。①③は、教室でも可能です。③は、SDGs に変更することも可能です。	

【プログラムの進め方】①「循環型の暮らしがつくる日本の自然」

	学習内容・活動	写真
導入	地球にすむ生きものは、さまざまな環境で互いがつながりあって生きていることなど生物の多様性、命の恩恵について説明する。私たちの生活スタイルの変化が地球環境を壊し続けていることで、その多様性が失われている。世界や日本の自然の変化は、便利というものと引き換えにした代償であることを伝える。かつての自然、日本の自然とは、今と何が違うのかについて考える。	
展開	里山の写真を掲示し、かつての循環型の暮らし方を説明する。自然を収奪するというより、利用させてもらいながら生きる生活が文化となった場所。里、野良、山。自然の恵みを余さず使い、資源を無駄遣いしないゼロエミッション社会を香川の自然の利用形態の知恵(さぬき三白、借耕牛、線香水)などを交えて伝える。日本の自然とは、人がかかわることによって維持されてきた自然、野良仕事によってつくられた自然であることを理解させる。それが戦後のエネルギー革命、化石燃料の普及などにより激変。日本人の自然とのつきあい方、農林業のかかわり方が変わってしまったこと今の生活スタイルと共に伝える。生物の多様性が失われた。	■里山の環境 
ふりかえり	現在、日本の絶滅危惧種の 50%が里山の環境に依存していること、山の緑は水を確保し川から海へと流れて土を育てる。この水と緑と土という自然環境のつながりとその循環システムを断ち切ってはいけない。私たちは、それらから恩恵を受けていることを再認識させ、どうすれば日本の自然が豊かになるのかをみんなで考える。	■循環型の暮らし 
まとめ		■町の人がかかわろう

【プログラムのアピールポイント】

- ・日本の自然とは、どういうものかがわかる。
- ・日本の環境を考える上で、礎となる。
- ・KP 法やイラストなどでビジュアルに伝えることができる。
- ・これからの暮らしのヒント、生活スタイルの再考につながる。
- ・総合学習での実績多数。

【プログラムの進め方】②「地球温暖化と生活防災」

	学習内容・活動	写真
導入	パワーポイントの授業。はじめに IPCC（気候変動政府間パネル）などの資料を基に制作していることを伝える。地球温暖化クイズからスタートし、世界の気候変動から日本や香川の今を伝える。	
展開	温暖化の仕組みや CO₂の循環を映像でわかりやすく見せる。現在の世界や日本の CO₂ 濃度から現状以上の対策をとらなかった場合、2100 年までの世界の気温の変化をシミュレーション画像で紹介する。次に温暖化によってどんな影響が出るのかを 4 分程度の映像で紹介し、IPCC 第5次報告書から8つのリスクが高まることを伝える。その影響は、近年、香川でも表れていることを台風や渇水状況からひも解く。ここで、私たち人類が何を行ってきたのか、その現状をグローバルに紹介。温暖化の要因は、私たち人間の活動であることを知る。	
ふりかえり	ここでみんなで考える問題を 3 つほど提示する。エコバック、乾パン、ブロッコリーなどで地産地消など化石燃料に頼らない暮らしは、温暖化を防止し災害にも強いことを知る。	
まとめ	CO₂を出さないこと、温暖化に備えることがこれからの私たちにできること。暮らしや防災の工夫、ヒントを掲示する。南海地震の確率などから3分3時間3日間ルールの説明。温暖化と防災は、コインの表裏である。防災マップやハザードマップで避難場所へのルート、日ごろの備えなどを確認。逃げる、備えることの大切さを過去の震災から学ぶ。	

■香川の気候変動

■2100 年の現状

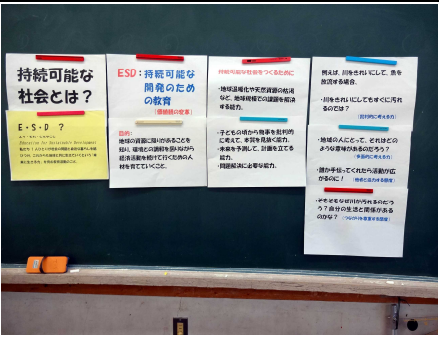
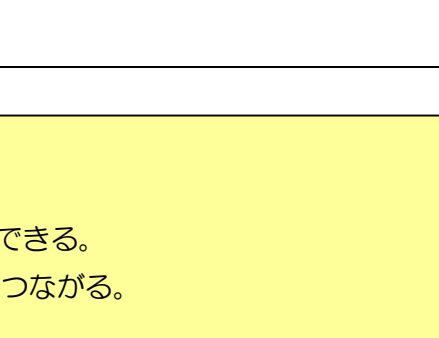
■みんなで考えよう

■減災の9ヶ条

【プログラムのアピールポイント】

- ・地球温暖化の現状やしゅくみを知ることができる。
- ・生活スタイルの改善を促し、温暖化や災害に備えることができる。
- ・映像や動画などでビジュアルに伝えることができる。
- ・これからの暮らしのヒント、生活スタイルの再考につながる。
- ・総合学習での実績多数。

【プログラムの進め方】③「持続可能な社会づくりとは？」

	学習内容・活動	写真
導入	資料 A4 を配布するため、あらかじめ印刷していただく。(A4ー2 枚両面印刷) 持続可能な社会づくりとは何かを説明する。	
展開	ESD とは、私たち一人一人が社会の問題と身近な暮らしを結びつけ、これからも地球と共に生きていくという未来に生きる力を育む教育活動のこと。エッ・それ・どんなこと？をエッ・それなら。できるにかえる教育、価値観の改変であること、目的や能力を伝える。 今、1 秒間に世界で起きていることを伝え、知っているけどやっていないことを認識させる。	■ESD とは？ 
ふりかえり	人間のエゴが便利というものと引き換えに引き起こした環境破壊から地球サミットの行動計画へ誘い、日本が環境への気づきを得るためのムーブメントを起こしたことを知る。	■世界の現状 
まとめ	四コマ漫画で世界の現状を伝える。世界の仕組み、自然界と人間界の違いを知る。ここで問題「16 個のピーナッツ」を提示し、考えさせる。ピーナッツを永久に食べ続けるには、どう分ければいいのか。ピーナッツが資源だったら、格差や枯渇しないように状況にあった配分やルール作りが必要であること、資源は有限であることを学ぶ。持続可能な社会づくりのポスターを使って脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会が手をつなぎ、同時進行しなければならないこと。地球は1つ。過去と未来はつながっていること考え、行動することを促して終わる。 ※内容を SDGs に変えることも可能。	■持続可能な社会をつくるには？ 

【プログラムのアピールポイント】

- ESD がわかる。SDGs につながる。
- 世界の現状や社会問題を知ることができる。
- KP 法やイラストなどでビジュアルに伝えることができる。
- これからの暮らしのヒント、生活スタイルの再考につながる。
- 総合学習での実績多数。